

ホザキヤドリギの長野県新産地

浅野一男・北澤あさ子

Kazuo Asano & Asako Kitazawa: A new habitat of *Hyphear tanakae* in
Nagano Prefecture

ケヤキなどの落葉広葉樹に寄生し、東北地方と中部地方中北部に偏って産するホザキヤドリギの長野県内の分布は、松本市と諏訪郡を結ぶ線以北で、南信にはないとされている(『長野県植物誌』1997)。下伊那からの記録は杉本順一(1961)、横内斎(1971)にはないが、『下伊那の植物上巻』(1952)には山本村(現・飯田市山本)大明神の記事(1934. 10. 14)がある。しかし、この記事の証拠標本は今日なお不明である。

下伊那の先駆的植物研究家故勝又恒一はその生涯の全採品を生前浅野に寄贈された。浅野はそれを整理して東京大学に納めたが、その中に2枚大鹿村クロンテ産ホザキヤドリギの標本(勝又恒一1932. 6. 13, 1933. 6. 8, TI)があった。これが過去下伊那で確認された唯一の産地である。『下伊那の植物中巻』(1973)は山本と大鹿を記すが、山本は『上巻』の記事に、大鹿は勝又の標本に基づく。

山本大明神で発見に努めてきた著者の一人北澤は、1997年12月10日、山本のハナノキ自生地に大場達之、馬場多久男、大窪久美子、小澤正幸ほかを案内した際、ホザキヤドリギが長野県天然記念物指定のハナノキに寄生していることを知った。その後北澤は隣接の飯田市大瀬木まで範囲を広げて調査を行い、新たに16個体がケヤキに寄生する自生地1ヶ所を大瀬木で発見したので、以上の発見を『はなのき通信34号』(1997)で報じると共に、古松隆明と浅野に話した。古松(1998)は北澤の話に基づき、紹介記事を『公民館報いがら』などに載せた。ただし、北澤、古松の記事はいずれも標本記録がない。浅野は北澤と共に両者がホザキヤドリギであることを現地で確

認し、落果と果実つき落枝を拾い集めて標本にした。今回標本データを添えて発表するが、両者間は直線距離約1kmなので、その延長線を含め新たな自生地の発見に努めている。

静岡県では千頭国有林に産するのみであり、岐阜県や奥三河にはないので、飯田市の2産地は本種の西南限生育地である可能性が高い。なお、大鹿村クロンテの産地は現状不明である。

大明神の現地で御教示を賜った大場達之、馬場多久男、小澤正幸の各氏、調査と保存を承諾された大瀬木のケヤキ所有者、椎名志ずか氏、椎名義則氏に感謝する。

標本：飯田市山本大明神780m(浅野一男・浅野明子・北澤あさ子80495, SHIN), 飯田市大瀬木宮ノ平690m(浅野一男・浅野明子・北澤あさ子80496, SHIN)

参 考 文 献

- 大原準之助(1981) 津具村の植物 愛知県北設楽郡津具村教育委員会
加藤等次(1969) 豊根の植物 愛知県北設楽郡豊根村教育委員会
神谷平(1965) 天竜川流域の植物 天竜・奥三河自然公園調査書 71-86 愛知県・長野県・静岡県
岐阜県の植物刊行会(1966) 岐阜県の植物 大衆書房
北澤あさ子(1997) はなのき通信34号2 はなのき友の会
古松隆明(1998) 公民館報いがら第154号3 飯田市伊賀良公民館(1998) 伊那谷自然友の会報第75号14 伊那谷自然友の会

清水建美監修 (1997) 長野県植物誌 773,
分布図493 信濃毎日新聞社
下伊那教育会自然調査部 (1952)
下伊那の植物上巻 下伊那教育委員会
下伊那教育会生物委員会 (1973) 下伊
那の植物中巻 下伊那教育委員会

杉本順一 (1961) 長野県植物総目録全
(『長野林友』連載記事の合本) 杉本植物
研究所(1984) 静岡県植物誌 第一法規
出版株式会社横内斎(1971) 長野県の
植物 信濃教育会出版部